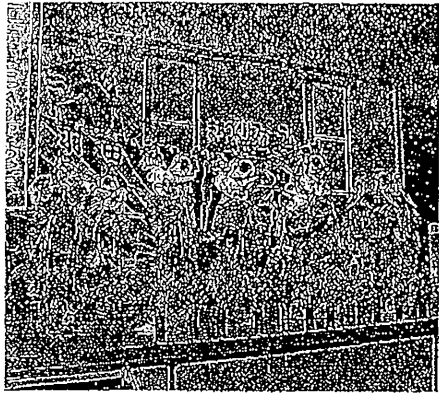


生涯学習

「くまんつあま」は子ほめ人



見事な子ども神楽が披露された

子どもを大人がほめること。地域の教育力を高める「子ほめ運動」を東北地区でも広めよう。1月30日、宮城県気仙沼市で「子どもをほめよう」研究大会東北大会「まちづくりフォーラム」が、NPO法人全国生涯学習まちづくり協会、気仙沼市教育委員会ほか主催で開催された。会場となった松岩公民館には市民200人が集まり、講演や全国の事例研究の成果発表、地域活性化をテーマとするシンポジウムなどに熱心に耳を傾けていた。

午前中、基調報告に立った松岩公民館の庄司幸男館長は、「この地域では頼まれもしないのにおせつかいを焼く人を『くまんつあま』という。最近、人と人をつなげる人という良い意味で使われ、まちを活性化させる重要な存在となっている」と説明、「子どもをほめる人はまちづくりに『くまんつあま』と述べた。また、地域にある公民館や図書館などの施設は子供の目標に立ってあり方が必要とする」とも述べ、「地区の子供会や各種少年団体などの組織が活性化すれば、自然と子供をほめる環境が整う」と話した。

続いて、聖徳大学の福留強教授が全国に20カ所にある「くまんつあま」の活動を紹介しながら、「まちの個性

「創年運動」も呼びかけ

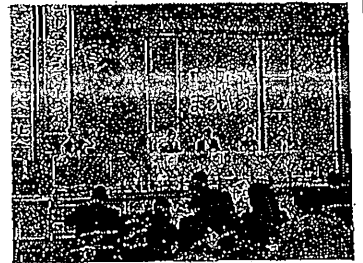
宮城県気仙沼市でまちづくりフォーラム

確保するため、大人社会の仕組みづくりにも力を入れるべきだとした上で、「高齢者を老人と呼んで境界線を引かないで、全部『創年』として、地域活動に参加してもらおう」と「創年運動」を呼びかけた。

昼食前のアトラクションでは、地元の子供たちが「水梨子」も神楽を披露し、参加者を楽しませた。

午後の事例発表は、「地域で育つ子供たち」「伝統を生かしたまちづくり」「市民が主役のまちづくり」の3分科会に分かれて行われた。

このうち、第3分科会では、気仙沼市で子供たちを自然体験活動で指導している谷山友夫さんが自身の経営する気仙沼自然体験センターの活動を紹介。「今の子供たちは身近にある海からも遠くへ行っている。安全を優先させて自然体験が不足する学校教育の現状について懸念をもち



「子ほめを東北地区でも広めよう」や地域の伝統・文化を踏まえながら、何をほめるか、またどうやってほめるかを考えることが重要だ」と述べた。

「名瀬なぜキヨラ塾」

離島の豊かな宝に気づく



「五感を働かせ、違う観点でまちを見よう」

義や討論で深め合った。

昨年7月25日から同市中央公民館で開催された「名瀬なぜキヨラ塾」は、全7回の講座。キヨラとは、奄美の方言で美しい、や清いなを意味している。市民大学の命名には、奄美の美しさを問い直したいという思いが込められている。受講生は、地域を先導する自治体会長や生涯学習指導委員のほか、市民団体、教員、行政職員が加わり、行政と市民とが協力してまちづくりを行うかについて模索した。11月28日には、「自助・互助の心あふれるまちづくりをめざして」をテーマに、第10回大会「まちづくり」第10回大会

奄美大島は、鹿児島市の南380kmの位置にあり、4万人が暮らす海と空(主催)名瀬市は山に囲まれた自然豊かな島。本島中央に位置する鹿児島県名瀬市は、平成16年度文部科学省の生涯学習まちづくり支援事業に指定され、離島におけるまちづくりをテーマに地域の再生に挑んでいる。



このほか、シンポジウムでは「ロード推進協議会の菅原昭彦理事長が、気仙沼市が全道の

島地区生涯学習推進大学名瀬大会2004)が開催され、島民1500人が奄美文化センターに集結し、生涯学習の輪を広げた。

同市の同支援センター事業の世話人を務める聖徳大学生涯学習研究所の福留強所長は大会の中で、「普段見慣れているまちも旅人は違う観点で見ると、住民も奄美のどんな点が具体的にいいのか、どのようにきれいなのか、五感を働かせてみれば、まちの見方も変わる」と述べた。

これまでキヨラ塾の受講生が取り組んできた「まちづくりマップ」の成果は、1月16日の最終講座で発表された。テーマは「子どもの居場所探し」名瀬市街地の癒し講座に耳を傾ける受講者たちと共同して、全国マップ展(仮称)を行い、11月には、名瀬市を開催地とした九州地区の生涯学習大会を予定している。

「くまんつあま」の活動を紹介しながら、「まちの個性

長補佐は「地域『キヨラ』の形成を目指して、市民と行政のパートナーシップづくりの力を注ぐ」と強調し、同市の公民館活動について説明。その上で、

住民の中に入っていくような積極的な動きが必要だ」と述べ、ロード推進協議会の菅原昭彦理事長が、気仙沼市が全道の

このほか、シンポジウムでは「ロード推進協議会の菅原昭彦理事長が、気仙沼市が全道の

このほか、シンポジウムでは「ロード推進協議会の菅原昭彦理事長が、気仙沼市が全道の

このほか、シンポジウムでは「ロード推進協議会の菅原昭彦理事長が、気仙沼市が全道の